

自然と文化科 班別活動 活動記録

日時	2024年5月10日（金）10:00～15:00		担当者
場所	1班 花明山植物園 3班 大阪府立花の文化館	2班 学習の森 4班 立命館大学キャンパス等	文：阪上 正方 写真：同 上
備考	参加者数69名（1班16名、2班18名、3班17名、4班18名）天候：晴れ		

- 1班 亀岡市の花明山植物園観察会とお屋敷・京都楽々荘で親睦昼食会を実施。
- 2班 神戸市立森林植物園で「学習の森」を重点的に観察。
- 3班 河内長野市の大阪府立花の文化園で午前はガイドの案内で園内散策。午後は丘陵部で樹木、山野草を観察、同定。道の駅「くろまろの郷」で買い物等。
- 4班 茨木市の立命館大学茨木キャンパスで「里山」観察会。川端康成文学館を見学。

以下は2班での活動記録です。

神戸市立森林植物園の森林展示館前に集合。付近には科員の興味や関心をひくものがいくつかあった。サネカズラの葉にいた六甲山特有のキベリハムシの幼虫（右の画像）は成虫に劣らず美しい。アリマウマノスズクサ



の花（左の画像）もサックス形でユニークだ。さらに池の上の松の木には着生ランのセッコク、地上にはギンラン。どうしても足が止まってしまう。進んでいくとチドリノキが花と果実をつけており、ハクウンボクやコガクウツギも白い花をつけている。



北日本区ではウラジロモミの枝に多くのクモラン、カヤランが着生しておりカヤランの花（右の画像）が見られた。さらに西門に向かって歩いて行くとカマツカ、ツクバネウツギ、サンザシ、ミツバウツギなどの花が盛りだった。

近藤班長の案内で、西門を出て「学習の森」へと歩みを進める。「学習の森」は元神戸市立教育植物園だったが1983年、神戸市立森林植物園に併合されたそうで、それ以前より植えられていた希少な植物が残存しているという。シロバナウンゼンツツジ、チシャノキ（カキノキダマシ）、ホソエカエデ、メグスリノキ、ツクバネ、コヤスノキ、ヘビノボラズなどの樹木がある。園内ではスプリングエフェメラルと呼ばれる草花が咲く区画もあり、イワタバコ、フタリシズカ、ナツトウダイ、ニョイスミレ、タツナミソウなど



草本も豊かだ。アオネカズラなどのシダ植物や、園外であるがカキノハグサ（上の画像）の自生地もある。キジョランの巻き付いた低木にはアサギマダラの蛹が見られ、近くには成虫も飛来していた。

2班のメンバーは植物園の本園と離れ、普段あまり訪れない「学習の森」でゆっくり観察、同定し、木陰で昼食休憩をとり、初夏を思わせる六甲の自然を楽しんだ。実り多い班別活動になったと思う。